



GRAND PRIX  
FESTIVAL DE CANNES

# イタリアの若き才能、ロルヴァケル監督の カンヌ映画祭グランプリ受賞作!

2014年の第67回カンヌ国際映画祭で見事グランプリを受賞。以降、世界中の映画祭に招待され、大きな注目を浴びた『夏をゆく人々』がいよいよ日本公開される。1981年生まれの弱冠33歳、イタリアの女性監督アリーチェ・ロルヴァケルの長篇2作目である。本作によって、彼女はそのみずみずしく卓越した才能が高く評価され、一躍世界の新世代を代表する存在となった。

光と緑あふれるイタリア中部・トスカーナ州周辺の人里離れた土地で、昔ながらの方法で養蜂を営む一家の物語。ジェルソミーナは4人姉妹の長女で、自然との共存をめざす父ヴォルフガングの独自の教育と寵愛を受け、今や父よりもミツバチに精通している。家族は自然のリズムのなかで生活を営んできたが、夏、村にテレビ番組「ふしぎの国」のクルーが訪れ、一家がひとりの少年を預かった頃から、日々さまざまな事が立ち始める――。



## 光と緑あふれる大地のもと、ある家族の心模様をこまやかに描いた傑作!

映画は古代エトルリアの遺跡が残る地域を舞台に、長女ジェルソミーナの視点で綴られる。彼女の外の世界に向けられてゆく、大人へと成長する心と、その変化を受け入れられない父の葛藤。『夏をゆく人々』は、ひと夏の家族それぞれの繊細な感情をすくい取り、一家の日常をこまやかに描き出している。しかしその一方で夢と現実のあわいに鮮烈なイメージを映し出し

た、まったく新しい、しかしどこかノスタルジックで豊饒な作品である。ロルヴァケル監督は、物語に縛られることなく、この作品で独自の世界、その緊密な関係性を作り出すことに挑戦し、評価された。観る者は映画を通してこの地を訪れ、人々に寄り添ううちに、いつしか夢のような世界に入り込むことになる。原題は「不思議」である。

## 名作『道』『甘い生活』『ミツバチのささやき』を超え、新しい感覚に彩られて――

ミツバチの飼育、父と娘の葛藤というモチーフは、ビクトル・エリセの傑作『ミツバチのささやき』を想起させ、さらにテレビ番組「ふしぎの国」の司会者を演じるモニカ・ベルッチの官能的でありながら、神々しい存在感は、フェリーニの『甘い生活』のアニタ・エクバーグを連想せずにはいられない。またなによりもジェルソミーナというヒロインの名が、フェリーニの名作

『道』でジュリエッタ・マシーナが演じた永遠の聖なる道化そのものであり、巨匠フェリーニの作品を彷彿とさせる。失われてゆく世界と現実の狭間に現れ、まるで風のように去ってゆく家族と少年。そして妖精の女王のように美しい人――この映画には子供の頃に感じた胸騒ぎや淡い想いが、夏の思い出とともに収められている。



# 夏をゆく人々

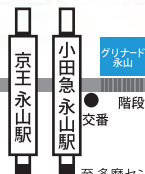
監督: 脚本: アリーチェ・ロルヴァケル 出演: トリア・アレクサンドラ・カンツ、マルバ・ロルヴァケル、サム・ルー・ウィルク、ザビーネ・ヴァルデマウス、モニカ・ベルッチ  
2014年 | イタリア | 111分 | カラー | イタリア・スイス・ドイツ合作 | 原題: Le Meraviglie | 英題: The Wonders | 字幕: 吉岡芳子、K. K. K. K.  
配給協力: アークエンタテインメント 宣伝: テレビとサニー [fb.com/natsuyukufilm](https://www.facebook.com/natsuyukufilm) [@bewonders2015](https://twitter.com/bewonders2015) [www.natsu-yuku.jp](http://www.natsu-yuku.jp)



主催: TAMA 映画フォーラム実行委員会  
お問合せ: 080-5450-7204 (事務局直通)  
042-337-6661 (永山公民館代表)  
※上映当日は 070-5580-9071 (会場) へ

Twitterで最新情報をフォロー  
@tamaeiga

Facebook ページに「いいね!」で参加  
<http://www.facebook.com/tamaeiga>



会場: 多摩市立永山公民館  
ベルブ永山 5F  
(東京都多摩市永山 1-5)  
ベルブホールは [京王相模原線・小田急多摩線]  
永山駅から徒歩 2分